

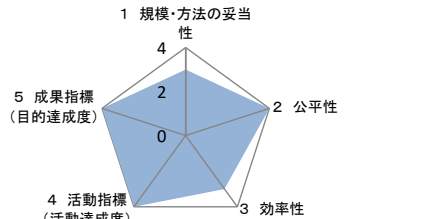
令和 7 年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和 6 年度実施事業に係る事務事業評価					6047	街頭補導活動事業				こども部	こども総務企画課
1 事業概要		中事業番号		451								所属コード	221000
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）	
大綱（取組）	Ⅲ「学び育む子どもたちの未来」	4.1		4-1	○						少年センター補導員（1 5 0 名以内）による街頭補導活動	郡山駅前地区及び郊外の大型商業施設等を中心に活動を展開することによって、少年の非行防止活動を行う。	
施策	2 笑顔があふれ、未来への夢を育むまち												

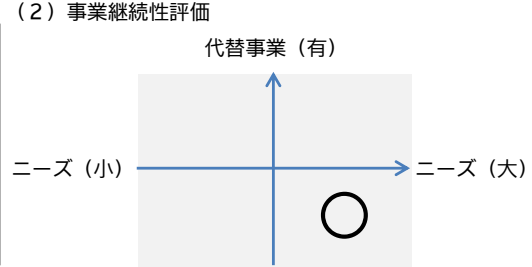
事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
昭和43年当時、シンナーや喫煙、暴力行為といった少年非行が全国的な問題となっており、郡山市においても青少年の健全育成を図るうえから、少年センターの設置と街頭補導活動の強化が必要とされていた。	インターネットやスマートフォンの普及に伴い、少年の非行内容に変化が見受けられる。街頭補導活動の際には、目立った非行は見受けられない。SNSなどを利用したいじめ等が懸念される。	少年非行の低年齢化及び多様化が見込まれる中、子どもたちに積極的に声をかける「愛の一声」や補導員が常日頃から地域を巡回しているという意識を根付かせる「見せる補導活動」を通して少年非行の未然防止を継続していく。また、子どもの安全を守るための環境づくりを推進するセーフコミュニティの活用や関係団体との連携を図ることが必要である。	駅前等における表面化した少年非行はほとんどなくなったが、街頭補導活動を継続し、声掛けをすることにより、子ども達を見守っていくという意識付けが必要である。

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和 4 年度）		2023年度（令和 5 年度）		2024年度（令和 6 年度）		2025年度（令和 7 年度）		2026年度（令和 8 年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	青少年（7 歳～ 2 0 歳）	人		39,754		39,259		38,667								
活動指標①	街頭補導活動	回	230	206	230	199	230	198	225		225		225			
活動指標②	街頭指導件数	件	50	23	50	47	30	3	30		30		30			
活動指標③	愛の一声の件数	件	5,500	4,781	5,500	5,321	5,000	5,385	5,000		5,000		5,000			
成果指標①	市内の少年の検挙・補導件数(郡山警察署・郡山北警察署管内)	件	315	330	305	267	295	390	285		285		285		325	285
成果指標②																
成果指標③																
単位コスト（総コストから算出）	補導活動 1 回あたりのコスト	千円		37		43		48	42		40		42			
単位コスト（所要一般財源から算出）	補導活動 1 回あたりのコスト	千円		37		43		48	42		40		42			
事業費		千円		1,427		1,995		1,560	2,562		2,750		3,100			
人件費		千円		6,256		6,660		7,966	6,500		6,500		6,500			
歳出計（総事業費）		千円		7,683		8,655		9,526	9,062		9,250		9,600	0		
国・県支出金		千円														
市債		千円														
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		7,683		8,655		9,526	9,062		9,250		9,600	0		
歳入計		千円		7,683		8,655		9,526	9,062		9,250		9,600	0		
		実計区分	評価結果		継続	継続	継続	継続		継続						

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
補導活動は概ね計画どおり実施できたが、熱中症予防対策及び大雪等の理由により補導活動を10回中止した。	市内少年の検挙・補導件数は、郡山北警察署では 8 件減少したが郡山警察署において131件増加し、合計で前年より123件増加した。	【事業費】 街頭補導活動については、概ね予定通り実施できた。今年度は、補導員の委嘱替がなかったことから、ユニフォームの購入がなく、前年度を下回る結果となった。  【人件費】 会計年度任用職員の給与改定により、人件費が増加した。

### 3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価			
1 規模・方法の妥当性		3	
2 公平性		4	
3 効率性		3	
4 活動指標（活動達成度）		4	
5 成果指標（目的達成度）		4	

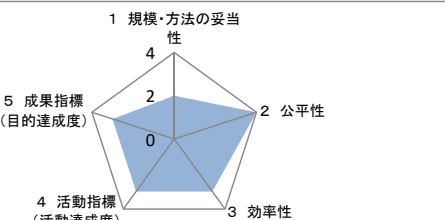


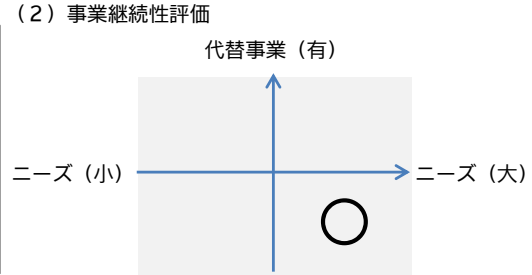
継続	一次評価コメント
街頭補導活動は、青少年の健全育成の一環として定着しており、補導員の積極的な愛の一声や見守りにより、事業を継続することで成果をあげている。 令和 6 年度においては、通常補導及びイベント等の特別補導も概ね計画どおり実施することができた。 活動指標である街頭指導件数は前年を上回ったが、成果指標である少年の検挙、補導件数については、計画を上回り、前年度より増加していることから、今後も引き続き街頭補導活動事業を継続する必要がある。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）

気候変動対応	D X（デジタル市役所）	部局間協奏

### 4 二次評価

(1) 事業手法評価			
1 規模・方法の妥当性		2	
2 公平性		4	
3 効率性		3	
4 活動指標（活動達成度）		3	
5 成果指標（目的達成度）		3	



改善	二次評価コメント
令和 6 年度において、通常補導及びイベント等の特別補導は、概ね計画通り実施された。駅前などにおける目立った非行はほとんど見られなくなり、街頭指導件数は 3 件にとどまっている。一方、警察による市内の少年の検挙・補導件数は、前年度比で123件増加し390件に達しており、少年非行の内容が、SNSを利用した非行等に変化していると考えられる。さらに、少年センター補導員の担い手不足も課題となっている。 少年センター補導員による「愛の一声」や「見せる補導活動」は、非行の未然防止に一定の役割を果たしているものの、少年非行の多様化が考えられることから、本市としての非行防止活動の在り方や実施手法の見直しを検討する必要がある。	

(参考) 令和 6 年度カイゼンのための行動計画